

聖德太子傳

十



聖德太子傳卷十

四十五歲

太秦廣隆寺御存弓靈驗之事

四十六歲

勝鬘經講讀之事

四十七歲

河内國御陵沙汰之事

四十八歲

法華伽藍仁田園所寄附之事



太秦廣隆寺に沙弥塔心相建給事
後近江國蒲生河人真出事

四十九歳

於班鳩宮桃花宴の事

五十歳

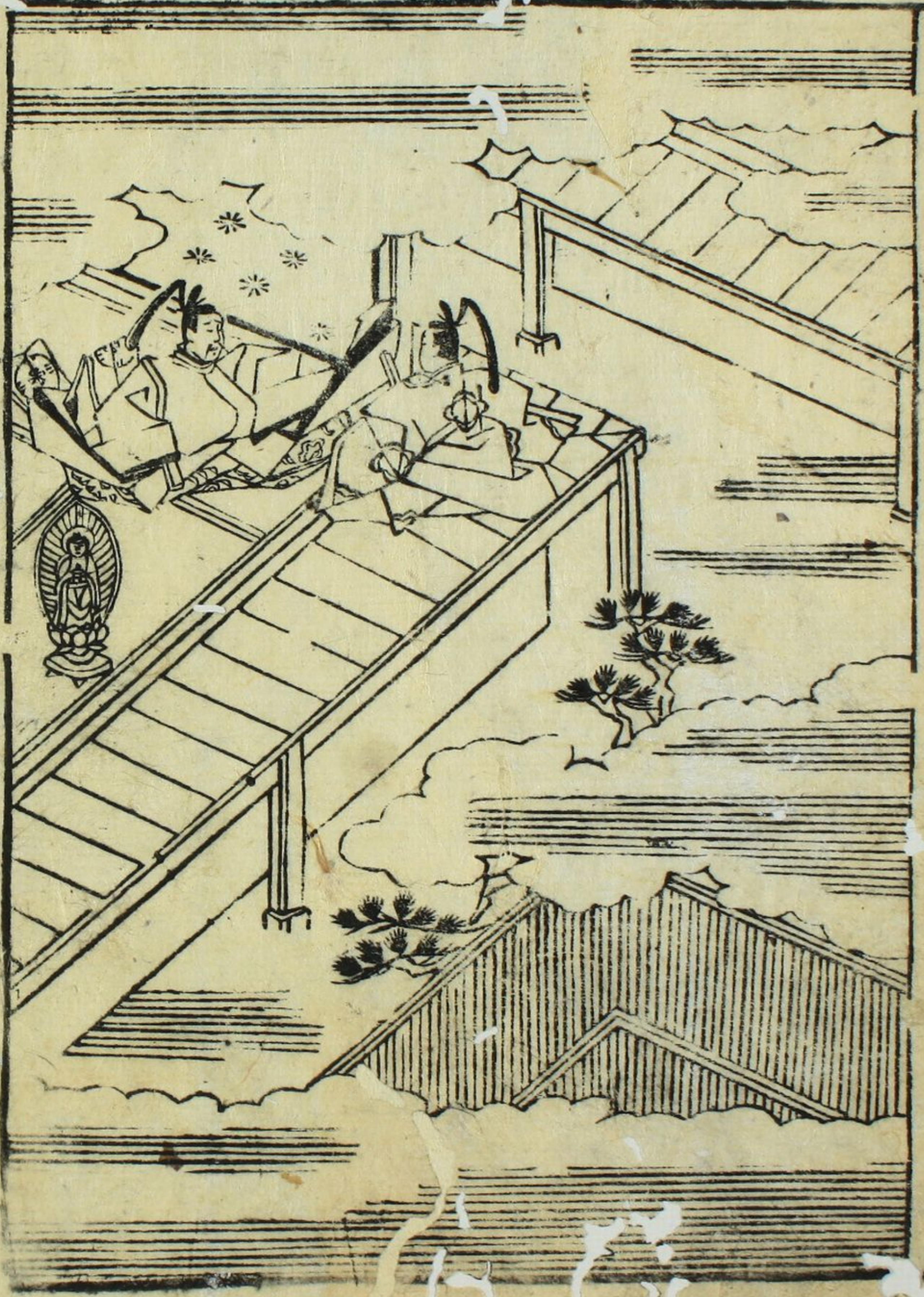
御入滅并沙葬送の事

黒駒并調子丸之夏

太子四十五歳 丙子五月乃心入滅とてにち
うへ美路ひくはは一船の船客也世也れ沙具足とて
と終つた形見に末代乃高生れあ免とて四天寺
善提寺法隆寺廣隆寺等の法をにおさめ給へり
法隆寺の中に大和國法隆寺あり一船の客客とて
免ん免生のけり是く塵尾書呂林梅松沙彌足乃
七回生沙彌虎珀の念珠等とて十六年の沙道
とめしとて終ひく被法隆寺ありあそめ終つて
この中に法苑統御等沙彌自覺の義經等
中の中いあまの皮成とて終つてあれ梵網經の用
起ふとあのはらにあがめ終つてとて終つてとて
乃沙をたしとて終つてとて七十七年沙彌等持佛

ありて浮懸りたりし地は平愈より移いこれに彼地
 に大伽藍とて移りりつりまれば大和長林寺これ也
 世方の人乞と元有寺ありり大和國の佛所結地
 の多須那に執して正教を其像と造りてし
 一とてありり移つて日牟古に教を有縁の國
 あり一切の神明とれ地を教をありてし
 一とて教の佛法は大橋梁ありあり然野に二所移現を
 白山権現八十一所教をあり然野に三十八所の地
 乃一とてありり移りてありあり十一所現の
 八所を輪子守宮に遷教を吉野乃三十八所の地
 一とて教をありてし一とて紀伊の四所の地
 の中一とて三乃宮にあり然野にありり此國にありり





所の中一器名稱吉祥王如來也戸たてまゝなるありし
 中もろくめを於法とす戸あふまじりくあり成法如來
 聖淨懺の時廣隆寺の像を昌僧初に執して法行
 務ありんとてしに道昌奏してつりく於徳寺の葉
 所の像具強ありとりの像とあり寺に於てそまじり
 ぶ美といのりてまじりくしやありけ法
 ん小物して伴の葉所也葉とあり寺に安んじ
 先一七日のあひと淨修法とそまじりれありは懺
 くら中徳よ平後やうりくげり同法を大井川
 少れて風城よりうれいんやを一時みまじりく後如
 宮下ありては像乃初めて行極まじりくこれ
 河流西のありてみつとて花法安極あり同法

ち小早魁と入る昌勅とともなうなり此佛を
あつて懇行せし毎申日に兩脚ちよ渡りたる
にらして敷威のあまら古佛に准し新仏と
りく先新徳寺にまはりまてまのたまり勅に
より廣隆寺に古佛と安坐しそまてまの
をまかしてより先新徳寺に古佛のたまり
と先新佛と座光のうへ安坐したまへ
に座光揺動して新仏を安坐しあまら
より古佛の坐光のうへ安坐してとに西の
坐光堂とまらまをゆかりり聖武天皇の廣隆
寺に傳法とまらまをゆかりり
和天宮とまらまをゆかりり再興せし先
まらまの四門

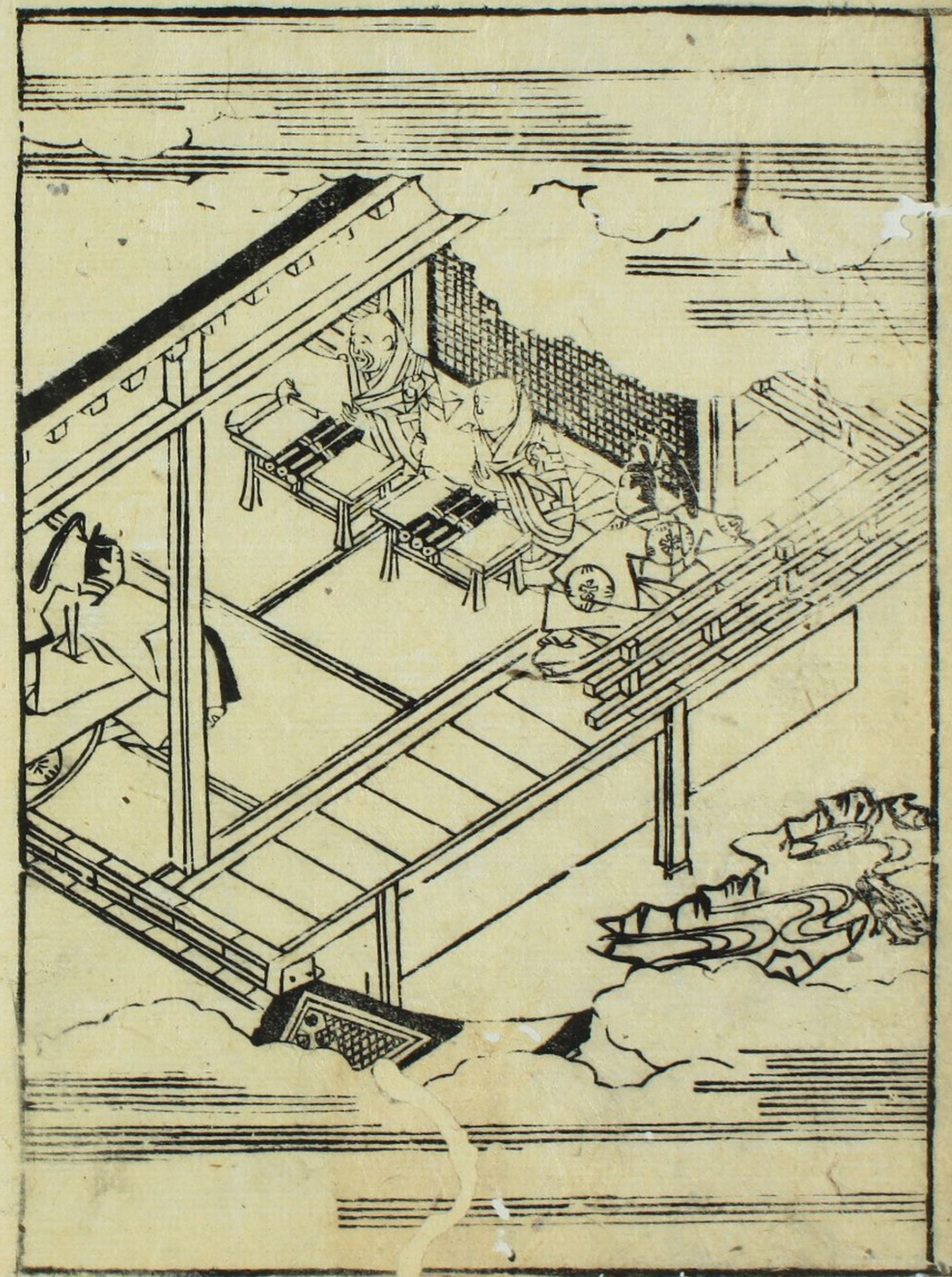
日華師依養法料修課料不等し寄附之
村上の帝八四寺に沙弥毎日乃虫海とまら
修りし三多沙八長和六年沙弥然にまら
に懺悔時小平愈とまらまの法望に二寺の
八條畫水十二時の修り等と修り後乃改
法をまら修りしまらまの法望に二寺の
法寺の舊記にのせし修りしとまらまの
密教の靈場とまらまの法望に二寺の
密寺二泰公寺三桂林寺四香桐寺五二
本泰寺七廣隆寺この西とまらまの
しり仲妻天皇四年に泰の始天皇六世乃
切滿とまらまの法望に二寺の

太子四十六乃伊弉册丁已推古天皇女六年此夏四月八日ふお鑑回宮よあひしく勝鬘僧と後三行をりこれきひて勅とらをゆつるにゆめてなり宮にたのめて居場とせらと嚴淨庵とに委嚴なり時よりあり月郷雲宮ししくを伺候とるる人一高の唄乃所連素して法去の遠乱ふとよあへ清涼庵の系たより地るまよつと蛙一飛上りて石のふに居て時の細子いゆかりに若狭郡若狭とるるとん法人年月と現ちるす是ハキもどたふあつたり也あつらとありら遠慮あつたけせむしとり也まを子の化儀とよひきとるまうんぐあ也この

伊弉法之事に去子九年の頃ハ清浄庵に清浄の事ハ化人のこととにひるむ蟬の如きたより鳴きこむとあつとあけと清一ハ二十五集と四十六感との伊弉法あつとるるなり被勝鬘僧ハ一巻の伊弉より部目よ勝鬘僧あつ一系に便り廣徳中つらとあつた乃麻にらつとれ勝鬘とらるる名可思深きつと何とてのてまらやあつとあま多力まらひこれ法取れた士位とゆくハ陰園の様とてししうゆしくあつたとめて化まるとあつたつらんやるれはつとあつた別舎法本のまらひとて若養のたとはつし中ハ別所陰園友松王のまらひとあつたて三後乃礼とあつた守終り中々

幻相の如きこととて凡庸評断の及とせらるるの
るり揚聲をくくせの七賢とてその肉力と云れ
多むく今万計とてその法力と云らゆべ
陽聲をくくせの如きは聖徳太子二の奈年れ若夫
之の阿除目乃后をくくせ養父母の功德
しんて精進をくくせにせしめしめて
乃をくくせ極受正法の大教とて
仰乃紀別よあひらけりしひの揚聲の疏
くくせ相しあけりしとて
縁の三説とてその
きは二天の君とて下る民とて
ゆいといふとて

あひてのくくせも
不説との妙義甚深なり
妙義とて
束也の
せしめ
の功德
は親して
は二倍
くくせ
くくせ
下とて
ふ十年



とひは累のよに伽藍と建たせんと又西の角に下と
りてつらつ又また塔廟と真隆でん曰ふとのと
してつらくは地のちり百余年歳とて帝於てか
るへしとのち於とよるに遷す人しとのよる
宮にゆり及び也

太子四十七歳推古天皇廿六年此去古古昔に
てつらく海表の國に軍と興して古くは
の事子姓ありて神皇と奉じしと大隆の運今
年運あへし中興も月法親王に命をたすの
りく大隆の運今今といふ事神の事の姓皇
といふのいふれあふ隋帝とてよるは
十月朕名とりて若てのあつらくあひり

法の中世生れ師の法を授けと後たすいしと
してつらつらつらに世を承入るまろく沙弥と
と衡山の林業に修修りて事三十餘年とい
と美とありて大晋の素の代よあつたりと
る初のせらりり費二のせはと韓氏の政を
してつらつらつ地を修りして佛法と修し
衡山よ登つて三登とカンぐりり又五十餘年
これ累の文帝に代よあつたりと第三のせは
劉氏の家よせられて世を承りて事三十餘
年りり第四のせは高氏に代せし衡山
修行も事六十餘年命と衡山よあつらり
第五のせは梁相のよにせられおあ入るま

又新山は位下しる七十一年身六せしより周朝の姚
 氏は位下して陳と周との世とをたて位下と姚氏
 東海日本國にせられて佛法と流布せんとりし
 聖教のあまのりすうしてけりしと國府天皇と文
 帝の同天皇と名として和名の子孫にせりし
 ケの大名加蓋せし四十十六ケの寺院と建立しし
 三百余人の僧尼となし大乗檀越の法門とい
 ろの百姓と名を弘法傳の三寶とすとき興
 隆といふと位下の力中してつたにりし
 といふと位下といふと早賤の家は生まれ
 家入りしあまのりすうしてけりしと國府天皇
 と位下といふと名を弘法傳の三寶とすとき興

わが知事又にあつするを名と稱して行給らん
 とうりしじのまをのりあつていふと名を
 てた地とすくまらありしとの給ふ也
 同年の冬十二月淨陵造りし宮にありし
 奏したてまつりけりし下の淨陵といふ
 々年めまの宮にいとくを陵はくといふ
 れの淨陵といふは漢の宮といふといふ
 といふといふといふといふといふといふ
 常の淨陵といふといふといふといふといふ
 式といひていふといふといふといふといふ
 れるといひていふといふといふといふといふ

けみらひくを死あるりやしてんかひをれん者主
子らとてん先をてまのく方人洞とあか
路つりあえれたをとあつらひとてんかひをれん者主
非の本地垂迹の利生法其のれみよびてんかひをれん者主
てなりつる津波とてん先をてまのく方人洞とあか

一 大慈大悲奉持聖教
延生序列興正法
特育我身大悲母
一 体现三同一身
為度末世法名生
三骨一廟三三之位
慈念念生如子
我身救世觀世音
西方教主弥陀尊
片域他缘亦已盡
父母取生血肉身
過去七佛法輪所
是故方便
定惠契廿大勢至
真如真実本一歸
還故西方我淨土
遺留勝地此廟窟
大業相應功德地

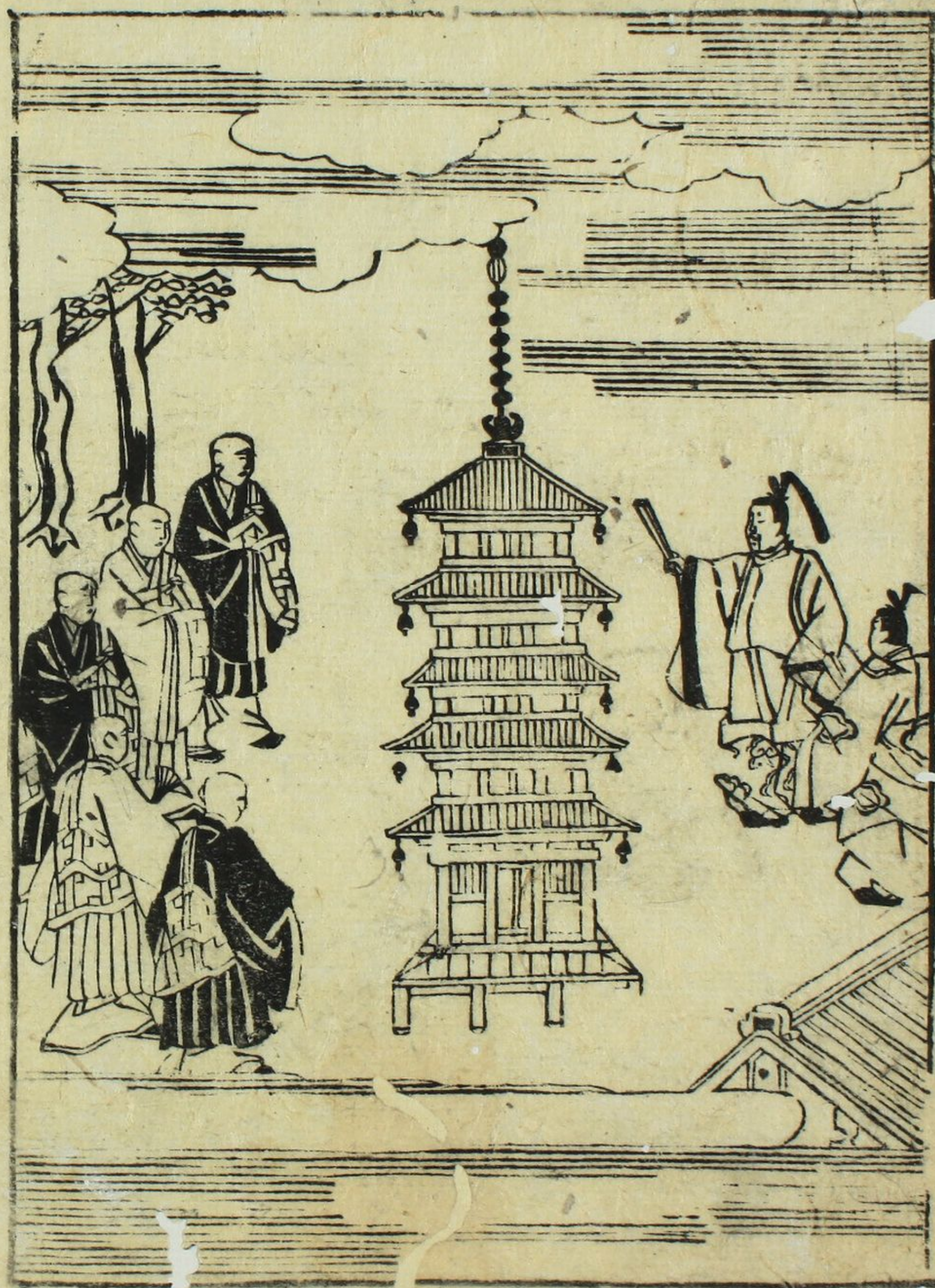
一 度無量諸難惡趣
安定往生極淨界

弘法大師の浄化文曰 廣海天竺の浄土 弘仁元年
河内小栗所とてん先をてまのく方人洞とあか
とてん先をてまのく方人洞とあか
日廿九十六の夜半に一の星落あり 浄土の洞乃
内は微妙の光あり 大般若經 觀世音菩薩普門品
とてん先をてまのく方人洞とあか
有り事 廣海天竺の浄土 弘仁元年
一 浄土の洞乃
光の輪あり その光の中は微妙の光あり 浄土の洞乃
てん先をてまのく方人洞とあか
安んずる世由分はあか

大正十一年

後修安樂と捨てしは縁ありし事なり我母后は是年除
 命の身如來に化身を成すや三尊と号すは
 和歌の事化と日域に轉じ遷化の年久し之を
 乃位と擡し三尊と一廟となすは忽ち光
 明の中ふは此の儀と成すは如く光
 け花勝鬘と稱すは素の要文と稱すは見佛
 此にかりしは海分と云ふは此の地と他
 惟ハ飛去れと云ふは權の迹と云ふは其
 軍ハ善徳と安樂の成ト其處は信
 歌乃海利ふ思念と云ふは此の安樂の
 中りのりて晴弘仁元年庚辰秋八月十九日
 皇子初分門遍照令剛化之

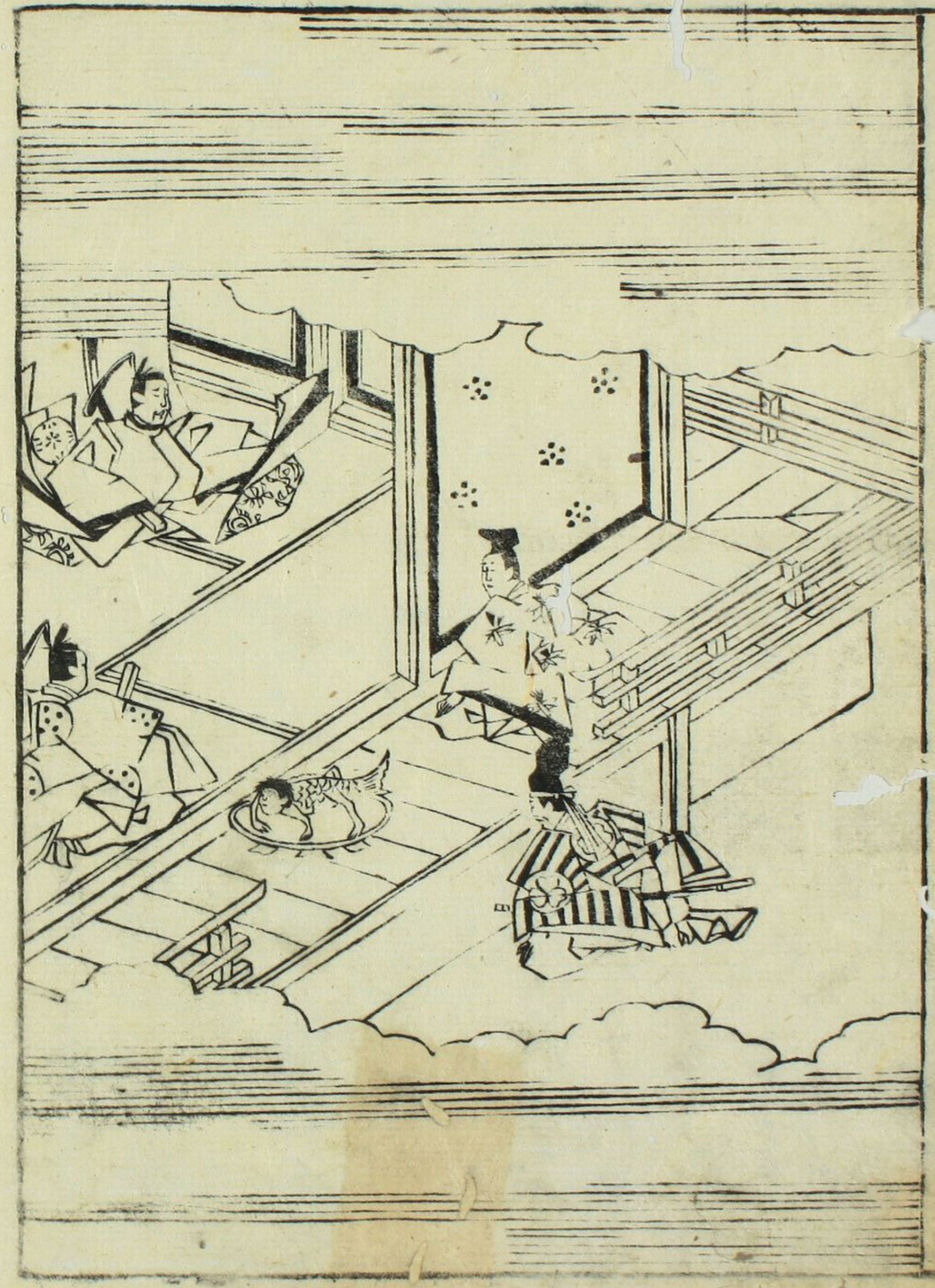




水戸



大正

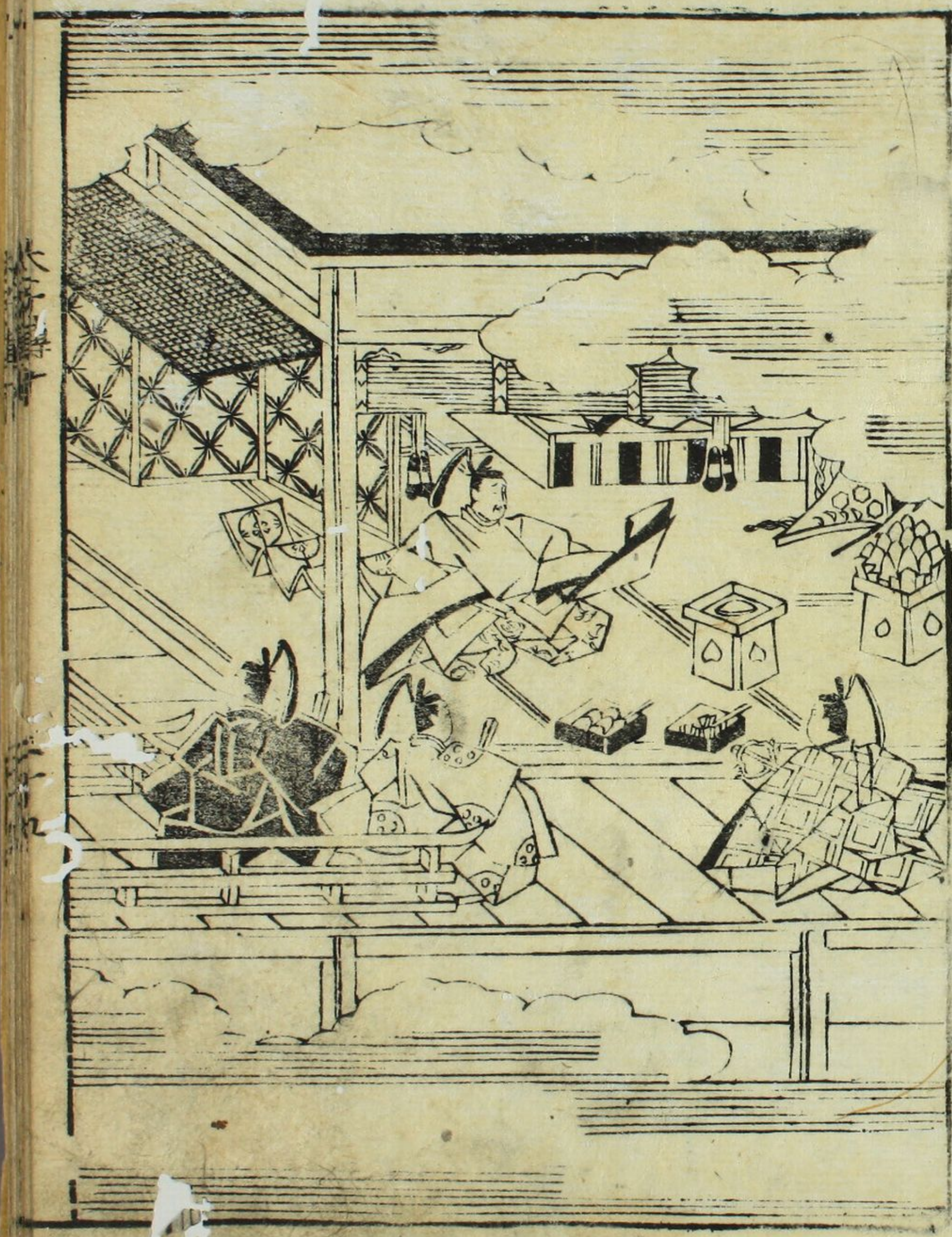


三十一

新嘉坡の心滅のしりりとしてありけり遠くを
天竺指す入滅の四候と云ふのりくろくを
ちよのれ清入滅と云ふぬふとふ十二穀の熟
と日域の畜産よつめて一切草木樹木とみか
えとありけり

大正四年九月三日 庚辰三月三日 琉球のまよあし
三日三木のまよあし 柳花実として時節と
秋のつと推古天皇と云ふと云ふ一語ありあり
天下の息絶してけりこれゆふ天子を終く此群臣
よほまゝのありけり 柳花はまよあしと云ふ
くくくるまよあし人もまよあしの中と云ふ
祥とて酒宴と云ふを群臣とせよと云ふまよあし

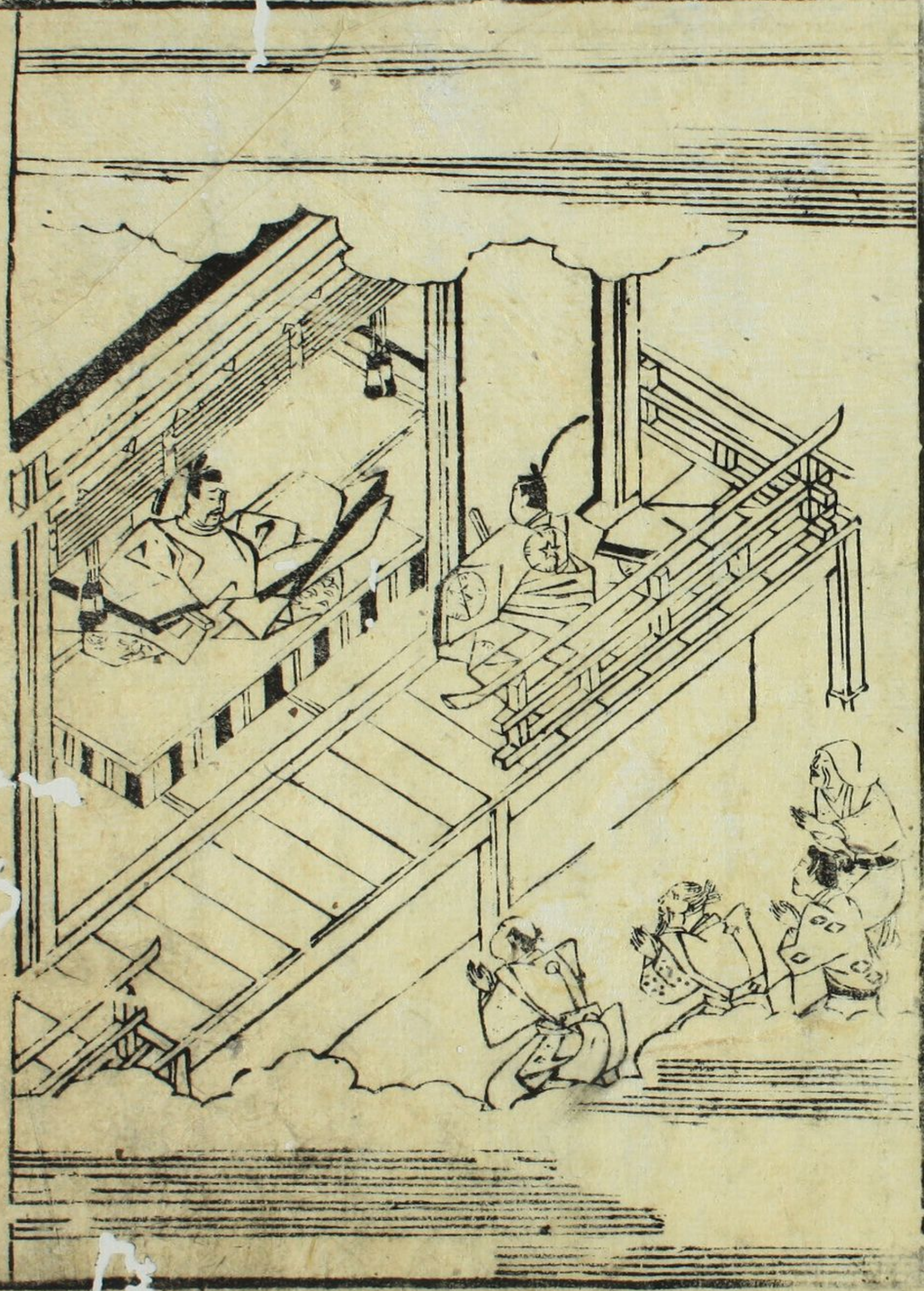
ナリ日暮るを左儀のゆかりありとて酒園の
とまよあしと云ふは酒のまよあしと云ふは
とまよあしと云ふは酒のまよあしと云ふは
く酒といふまよあしと云ふは酒のまよあし
しめてと云ふは酒のまよあしと云ふは酒の
に清りけりけりけりけりけりけりけりけり
迷ひけりけりけりけりけりけりけりけり
ものみけりけりけりけりけりけりけりけり
乃ゆけりけりけりけりけりけりけりけり
ひるまよあしと云ふは酒のまよあしと云ふ
るのみ清りけりけりけりけりけりけりけり



六節傳下

二十一

ことやのしつまいひをれば百人感泣くとあがくはりあり也
 太子を賤野女よあまうししくは神とあまうしけれ信
 ぞしゆんみらむらんやしおひりりりもりあに清き藤とた
 くをいあどさそく 法入はれせり清きひひりりや
 ひしるあ乃新そり清入城の時と又くれぶとるあ
 口よりと金久のえとこりり 産室よあがりゆふあ
 させぬぬ樹あして大梵他後の清きと制して人天
 大をよつぎとけくまひひひりり我をよと徳却とらと
 のく雅びくふまうして紫麻黄食乃あまくと成
 物せり油等交とらんり清き今とらり也これとるあ
 後よせり人天よつぎとあまうしけれ也他方大をい日
 佛より一切菩薩聖帝國王大臣名妃衆女乃別



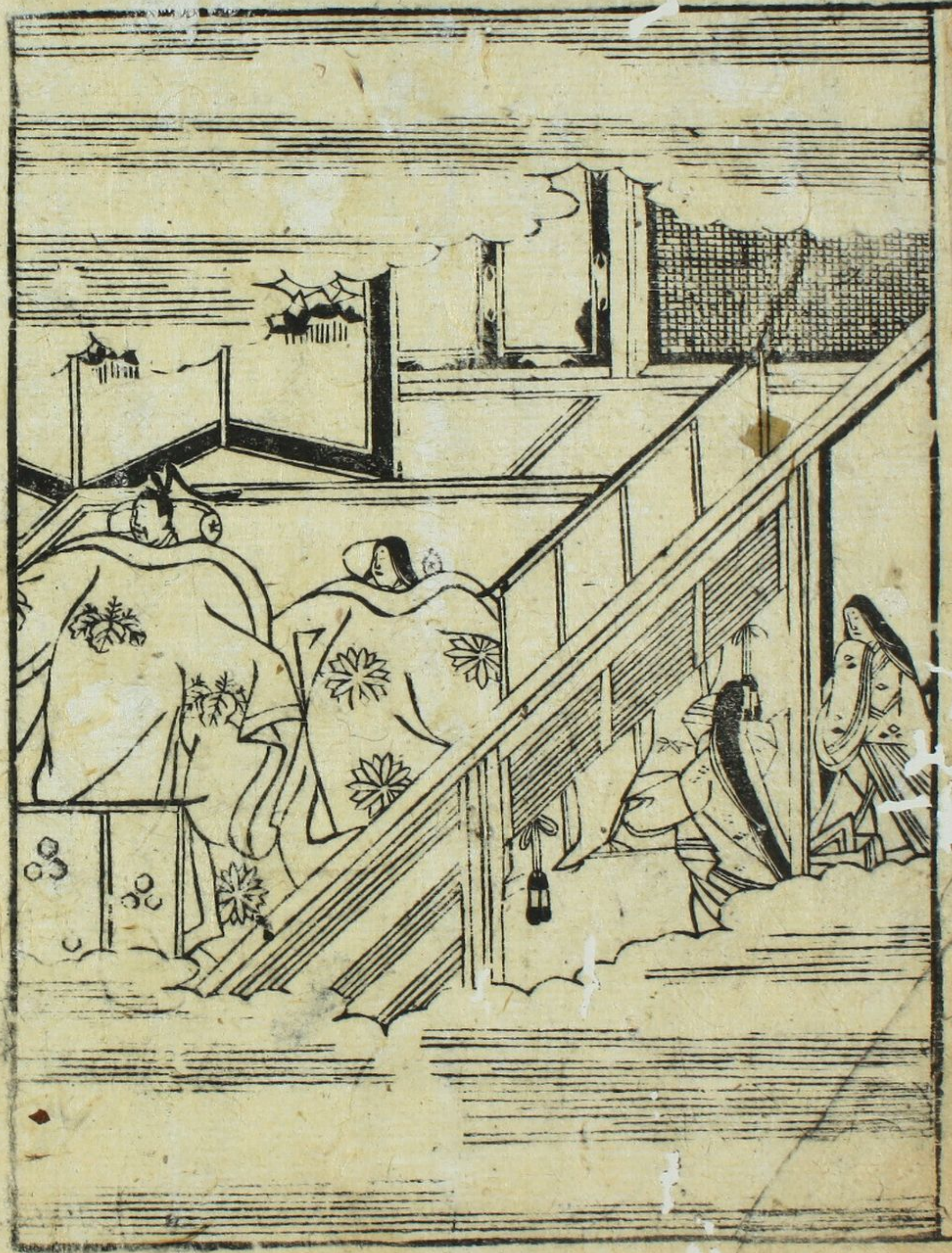
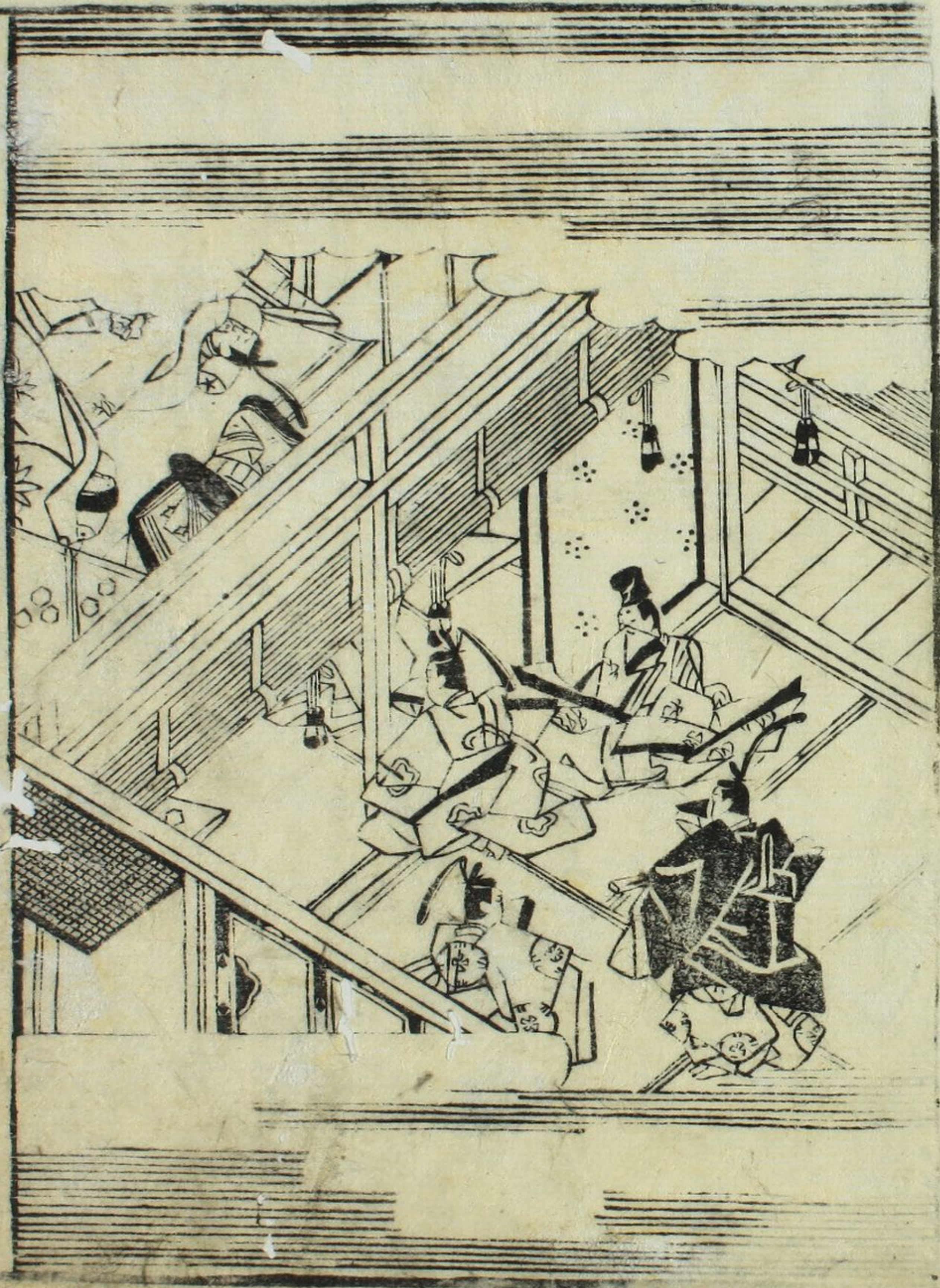
太子傳

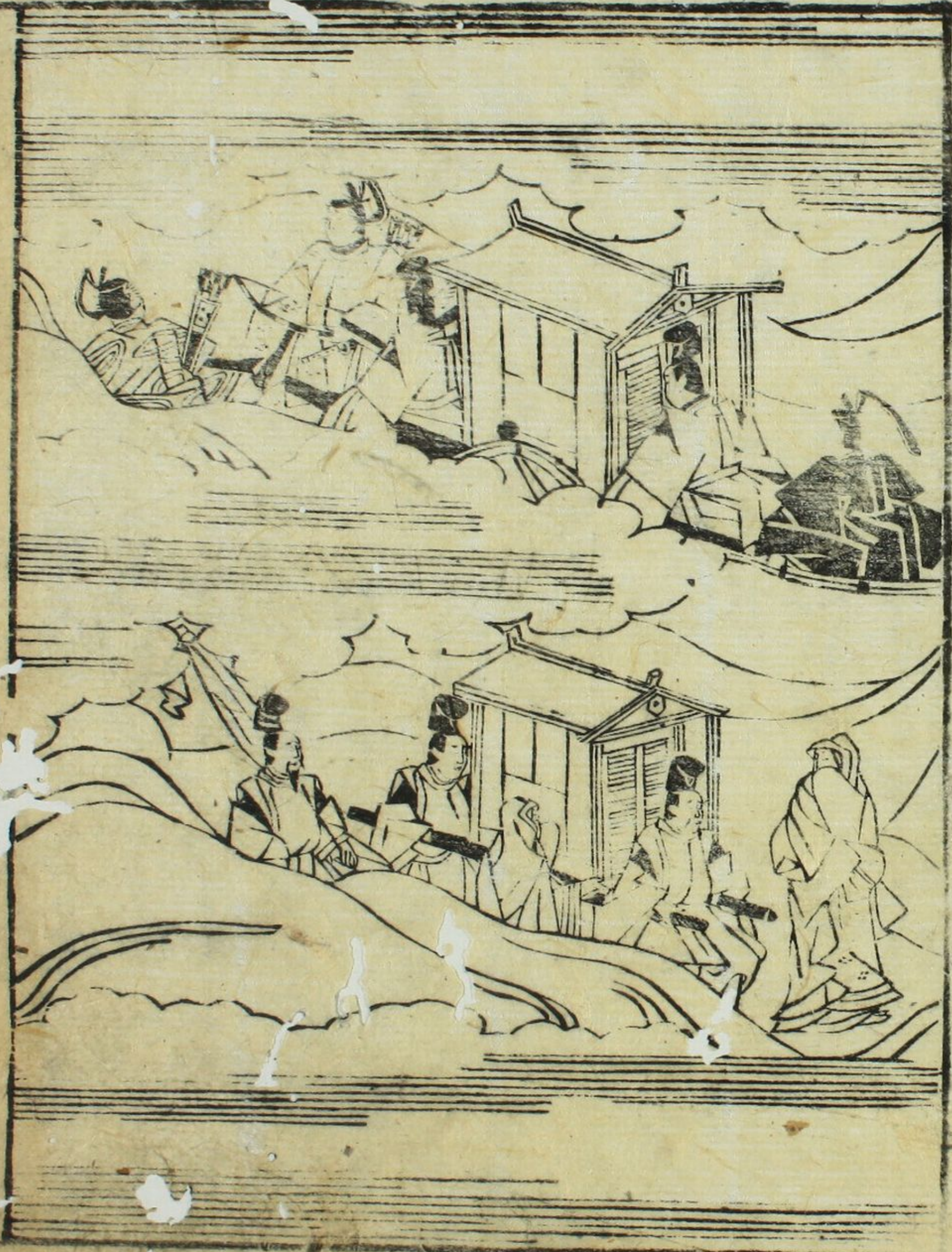
一七

う樹したてまつるるやとてんんんて十七ヶ集憲
 法と縁してまほの就標として法無異作のよ
 をとむらりて佛法のあめふ標果とに為さう
 此のよりのあめとて中よるおむとてふ
 じその意趣は四ヶ集約り一冊とて天のあめとてふ
 代の帝はゆきと先に四十六ヶ本の伽藍とて是を
 事のみは是を金輪聖天皇長地久洋經を滿法人枝
 業のあめとて別して一七ヶあふ大伽藍とて是を
 一冊は法隆寺四天とて法無異の法起寺妙ある
 善光寺定光寺等也併の伽藍とてふとみかあ
 二巻ぐらとてまらぬあめとて悟とてれとあめ天
 下と治め給へし佛法まほはとてふとて双のあめと

法無異ハ佛法とてふ滅亡とては長く日ありて
 じとて一の佛法とてふとてまらぬあめとて悟とてれ
 佛法とては乃伝教よりして世にひあまらぬ也又佛法
 の感えよりして天下あめとて伏せとてあめとて
 滅後とて大伽藍とてふとて三寶とて法隆寺とて
 とあめとて二一の法隆寺の寺傍には毎年秋
 九旬のあめとて法起寺の三ヶ所の三ヶ所の
 と海とて一の法隆寺の寺傍とて上金輪聖王とて
 儀とて一の法隆寺の寺傍とて三ヶ所の三ヶ所の
 三寶とて無階の法隆寺とて一の法隆寺とて
 長く建ちとて一の法隆寺とて一の法隆寺とて
 て於てとて一の法隆寺とて一の法隆寺とて

木下







年の村山河満是して日二月廿二日の夜に必滅
 吾常と云あり一法なり而夫未去その時其片つと
 之ととも大権の佛菩薩等曰ま乃中其ふす死
 の片つた列と云あり一法なり二月月中旬ハつる月毎
 片日あり夫は天竺西域と大智の列と云あり法つる権系
 と人も少集滅後二子余年其集滅序ふふせりして今客
 林表と云ふは中より中二教のすすかしてて其後の修
 養と云ふの心あり人州と云ふはとるゆつありと云ふに
 一後教訓と云ふは其の教義聖徳を子とありつるは法教
 意同教の村せと云ふは其の法ありぬありしあり事と云
 するみくともありとありつるありつるものと云ふり

聖德太子系圖

欽明天皇第二十皇子 人王元一代傳中名倉太珠敷天皇 敏達天皇

息長真牙王女廣姬為皇后生二男一女

押坂彥人大兄皇子

送登皇女

菟道稚津貝皇女

老女君夫人人生三男一女

難波皇子

春日皇子

栗田皇子

大流皇子

額手姫皇女

太姬皇女

豐御食炊屋姬為皇后生三男五女

菟道與鮪皇女 嫁於東宮聖德太子

竹田皇子

小墾田皇女

嫁於彥人大兄皇子

鷗鴉守皇女 更名輕守皇女

田眼皇女 嫁於息長足廣額天皇

櫻井弓張皇女

六人王元二代 欽明弟四皇子
楊豐日天皇 用明天皇

允穗部 間人為皇后生四男

厩戸皇子 号聖德太子御息男女元三人

山背大兄王子

素田姬

老蕪王子

管手女王

殖粟王

春米女王

近代女王

財平王

磯部女王

茨田王子

三枝王子

三枝末呂子王

馬屋女王

白髮女王

日置王子

序器女王

高嶋王

遠見王

池上部姫

山影王子

し姫女王

尾張王

三河女王

来目皇子

殖粟皇子

茨田皇子

石寸石為嬪

田目皇子

廣子

麻呂子皇子

酢香手姫皇子

欽明天皇弟上皇

八王世三代泊瀬部天皇

崇峻

立天伴糠手連小手子為死

蛸子皇子

錦代皇子

欽明天皇中女 敏達天皇

人王元代豐御食炊屋姫天皇

推古

厩戸豊聡耳皇子為皇太子仍録授政以乃稱孝天皇

聖德太子御建立四十六ヶ所寺院

或説多之而四百
有之開捨未定

持神寺 豫河内國 嶽上立之

阿弥陀院

信濃國後名善光寺本名云百濟寺也

四天王寺

攝津國王造岸上立之此寺有四個院

次田寺

河内國或説不入之

菅田寺

同國或説不入之

太平寺 同國

御廟寺

同國名轉法輪寺或科長寺或石川寺

法隆寺

大和國平群郡班鳩里立之此寺有七ヶ

元興寺

同國此寺有四名

中宮寺

同國依号藤尼寺又云法興寺

妙安寺

同國

法起寺

同國又他後寺

定林寺

同國

葛城寺

同國

態疑寺

同國平群郡

長琳寺

同國

西安寺

同國

信貴山

牛跡寺

同國

太平寺

八

放光寺

同國

比蘇寺

同國

廣隆寺

山城國葛野郡太秦建之此寺在之

六角堂

同國愛宕郡

石塔寺

近江國蒲生郡或云願成寺

蒲生寺

同國同郡或說不入之

阿弥陀寺

同國

金剛寺

同國

觀音寺

同國

織寺

同國

味摩寺

後云弥滿寺

勝善寺

同國蒲生郡

日向寺

或說不入之

般若寺

同國

大石寺

太和國高市郡

妙教寺

同國

坂田寺

同國云金剛尼寺

豐浦寺

同國高市郡

太子寺

美濃國山背大兄懷胎之時為初立之

百海寺

攝津國天王寺東面在之

當麻寺 太子舍才蒙太子命之定

久米寺 同以

氏作寺 近江國或云長光寺武河網假造之

尾寺 同云天王寺尾造取之

山田寺 大和國播磨立之云云臣建之

施康蘭寺 法隆寺如山上立之

野中寺 河內國蘇我大臣建之

四天王寺 出羽赤松田城

真福寺 寺屋孫處之三河國立之

己上太子佛在世於日本國中四十六箇寺院一千三

百余僧尼也此中太子所建立八箇所 大伽藍者

天王寺 攝津國 法隆寺 大和云班鳩里立之

法真寺 大和云 法起寺 大和云

善提寺 大和云 廣隆寺 山城國太秦建之

定林寺 大和云 妙安寺 大和云

己上八箇所大伽藍也

寬文六年仲春右月

德太子傳卷十終

